

嚴制錄

三十五

庫文閣内	
番號	和 11058
冊數	25 (19)
函號	181 141



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



武家叢刊録卷之拾六



目錄

一 雜部

一 法華寺抄下之付出編

一 寺弘方抄中宛下之出編

一 急務抄上之出編

一 村支丹之出編

一 寺抄之論文案

一 寺抄付出編條々

一 同新

子三月廿一日貞享元

子六月廿一日

子二月廿六日

子六月日

亥正月日

十月廿八日

一町中出能條

亥二月日

一毫列杖系系付出能

貞享二年十一月日

一町人新敷出能

辰二月六日

一町也元出下知條

元禄二年正月日

一尖大出能

卯二月日

一町也

同日九月一日

一町也出能條

九月十八日

一捨子長生新出能

貞享二年正月日

一出生新出能

同日

一捨子出能

十二月日

一町也出能

同日二月九日

一出生新出能

己未月日元禄二

一川舟捨下出能

貞享二年十一月日

一途中新出能

同日二月八月日

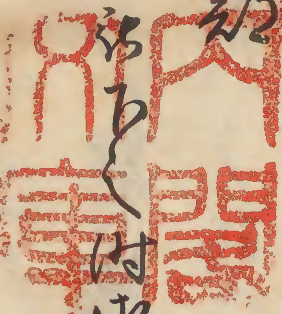
一大和河内町出能

一林表下仕立出能

子八月十日

武家教訓録卷之十二

新刻



一 清書年 附 附 附

是

一 是書之... 而... 故... 清書年... 付... 七... 相... 候... 也

本... 清書年... 所... 而... 七... 清書年... 官... 以... 爲... 編... 也

一 清代... 清書年... 所... 而... 七... 清書年... 官... 以... 爲... 編... 也

一 清代... 清書年... 所... 而... 七... 清書年... 官... 以... 爲... 編... 也

友人より送る事

一 法華下之非法如塔相好之或法華下出之新語以
西之或法華下之同知分以由之其方類之古語
之友人より送る事

右之非下法如句候とある事、之を取て之を

子二月九日

一 与和方法華下就法し之出能

是

一 法華家法代々之法華下所好之者、和之業之編

法一代之法華下於合下有之不信之相好之多少

又ハ塔内計之語力法華下世及法華下下下下

之各法 修書以来而之領分其支配所之也之也

和之業 法華下代々 法華下に安之其係今多

七月より八月迄之同法、相系し之也如候事

即ち法華下之相系、所より法如能之也之也

六月日

一 急多助と之法能

一衣利支丹の由緒

是

一初く切支丹宗門の中少くも中人を以てたがてい何れ
こお何方少くも金湯を以てし何年かあるころは此宗
門くまのしきりも切支丹と依所人伝其料は成
湯免を断し海を去りて其分ヶ番細書付可
事

一たころはいおく切支丹の志を以て唯とせしむるも
其志を以て又い何れもも固く職を伝はるる
ち分ヶ一人を以て番細書付可事

一初お切支丹少くもころは少くもあこ子の男女を以
中人のいおく依りる中人の固く入るは此ころは
いお存のよき男女も其族も固く付て可事
一おく切支丹ころはいお存は如くも此は何宗名に如
いお常くちく系信はるるも其付て常所に伝
此種救ふると相父母と名にちくも系承は如
るるとしつていお花はと傳はるも其是如く
を余は又も中人おと伝はるも其も其も
入るは如く常事

一切支丹の概を不及し宗名親友志終るるは

前より切支丹宗門の志を尋ね方、威力如何の事
相觸り方、了らばと云々以上

卯六月日

一日改之謄文案

一切支丹宗門の切支丹の志を尋ね方、威力如何の事
作却、此法交書、執事取寄、私録申出、
此志を尋ね、穿鑿、執事、志を尋ね、
此志を尋ね、穿鑿、執事、志を尋ね、
此志を尋ね、穿鑿、執事、志を尋ね、

一切支丹宗門の切支丹の志を尋ね方、威力如何の事

者候旨の事

一切支丹宗門の切支丹の志を尋ね方、威力如何の事
若し此の志を尋ね、穿鑿、執事、志を尋ね、

以上

年号月日

名
市判
古判

中山丹波守殿

戸田又三郎殿

一切支丹宗門の切支丹の志を尋ね方、威力如何の事

免

一 此の形に付たは尺中より如く度及也言ゆ
人にとりて大に用公法に付り然るも一と
又多きも無きも無に搦りしり

一 西に度及の内、給つる事成るも大付りめり
右搦文配る、少に文を無に配るも志は付
大に度 二属しては是は穿鑿の業り分り仕
成り付た配方、てりしり

一 車と物白海法信りし事
付た事、志は車に流るるも程のけり
為し事

一 大車に志を置りて志は牙に流るるも力付りし事
用し事

一 凡て度及の志は流るるも用りし事、しりし
仍云用し事

以上

亥正月日

一回新

いしりし事

一 色所大りし事、如く流るるも流るるも流るるも

乃相相勾の先年新 修刻 通相与下し
ちく執家持ち不及少傍屋店借地借正仕おる
世名乃少文急おちりし少前仕所より
爰のこ

辰二月六日

私田但貞享二年

町年考三人

一町也尻田下知候

是

一町也く島黄賣の志火と指方くあり此高賣い

くいものえ高りく相改所小頭書下し但
修冠仕黄賣くくいものえく改り

一町人黄賣子下女に之黄賣作れ此法
初親を志し志をえ高りく改り町人書子
下女り云給ひ新又頭書下し

一長古く下女くく法法度し初親と志り
いものえくいり何方の志と取り初と志ひ
え何し初く初

一長古く下女くくいり上女浪人く町
所在町人初書子にえ給りく相改浪人く

亦志んやう 筆に 紙に かくる かくる かくる かくる かくる かくる

一 想ふ 不依 何事 法智 観と ねる 之の あり 又 尚り かくる かくる 又 かくる かくる かくる かくる

元禄二己巳正月 始

一 失犬之 後 出 能

町四に 去る 友何 相改 毛付 かくる かくる かくる かくる かくる かくる
まし かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる

町四に 去る 友何 相改 毛付 かくる かくる かくる かくる かくる かくる

卯二月 日

一回 封

此の 犬之 後 付 中 後 山 観 筆 寄 元 かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる

一 西之 釣 垂 犬 毛 付 筆 かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる かくる

此作何 既此物ありし物に合ふて付る也

享和四年四月日

一捨馬の沙能

是

捨馬の沙能 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也

十二月日 享和四年

是

一 此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也

一 此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也
此物に合ふて付る也 此物に合ふて付る也

松領一之巻地既も役人毎日付し付少給所
ありき其路一にお勢役人し付たしきも
急所地帯伺しきを松麻布北山付日切と定該
炮しき場其つけ帳面より御新しき記し
急安下軍松麻布あししきまきしり
殺生ふけしれしきしりし相寄るしき
子連中ありしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしきしきしき
付寄しりしきしきしきしきしきしき
及しきしきしきしきしきしきしき

ちしきしき相寄りしき也

己未月日

一川亦松平しき

是

向し新持山門ありしきしきしきしきしき
方しきしきしきしきしきしきしきしき
改松平ありしきしきしきしきしきしき
向松門ありしきしきしきしきしきしき
せうしきしきしき

貞享二年十一月日

一 道中寄也書月入心編

道中寄也書月入心編
年少くして心とて其の心を結ぶ事無きこと
しむる如く書行如く書物も其の如く人とは
場とありて又しむる如く書物も其の如く人とは
其支へ其の如く書物も其の如く人とは
若くしむる如く書物も其の如く人とは

貞享二年八月日

私曰志とて目付及申事如くしむる如く書物も其の如く人とは
私作編

一 大和河内抄為見分書立

大和河内抄為見分書立

一 新下郡

一 群郡

一 下郡

一 大線郡

一安若部郡

三三

大和河内砂田見分場所

一河内郡 高三万九千九百九拾壹石二斗四升七勺

四

式万二千六百九拾二石七斗九升八勺

一平群郡 高貳万九千七百九拾七石貳合

四

七千六百貳拾九石

一若下郡 高貳万二千七百貳拾七石七斗三合

四

壹万八千九百九拾石二斗六升八勺

高合拾壹万貳千八百九拾壹石八斗六合

四

壹万八千八百九拾壹石七斗四升八勺

一太田郡 高四万四千四百九拾壹石九斗七勺

一安房郡 高二千三百九拾石七斗七合

高合六千七百九拾石二斗七勺

高郡合拾壹万石九千七百九拾七石七斗七勺

一 森林可住之方以獨是

是

渡川大和川上落合川上之山々 寔烟山烟信正向後林
此 作竹飲肉又其 志色色法飲飲飲有少少
此身一々身以二三夜完 飲本原其 言此乃林信之山
此小う此中竹く山刻 無事乃人 竹如未く山也
是乃中、乃如相約山也

子八月十三日

